

金峰山隠れ ～肥後国誌から

『肥後国誌・卷之四上・詫磨郡・田迎手永・竹宮村』の項に次のような記載があります。

「金峰山隠レ 竹宮村ト小山戸島トノ間木山街道ニ金峰山カクレト云所アリ平原故金峰並相連レル山嶽ヨク見フレ共二三町カ間見サル故土俗カク名クト云自然ト地形中窪ナル故ナリ」

ただこれだけの記述なのですが、これが妙に読む者の好奇心を掻き立てるのです。それは字名のおもしろさのみならず、木山街道という名称のように、どちらも現代の地図には記載のない消滅してしまった地名、名称であり、そのことが郷愁というような気分を醸し出すだけでなく、所探しのような探求心を刺激するのでしょうか。ともあれ、わたしは「金峰山隠レ」を探し当てようと思いたったのです。

さすがに、国誌の記事だけでは探しようがありません。そこで県立図書館で昔の地図に当たってみました。県立図書館には古地図（絵図）から近代、現代の各種の地図が1万2千点以上もあり、その中から金峰山隠れを探し出すのは、なかなか大変でしたが、ようやく目的のものを見つけ出しました。

それは明治初期の地図で、地租改正に伴う徴税のために作成されたもので、すべての字に地番が書き込まれています。たとえば「四拾八番字金峰山隠」、「四拾九番字北花立」、「四拾四番字山ノ神」、「四拾貳番字山ノ内」、「五拾貳番字佐土原」といった具合です。ここにあげた字名は「金峰山隠」の他は現在も町名となって遺っていますが、この地図にある多くの字名が現在の地図にはありません。そして、それらの字名を見て気付くのは「窪」という漢字が目立つことです。

「中久保」、「山立窪」、「八ノ窪」、「陽ノ窪」、「一ノ窪」といった具合です。久保というのは窪であり凹なのですね。つまり「詫磨ガ原」は起伏に富んだ台地であることが地名からも分かります。

そのなかで非常に特異な形状をもつ窪地が、「金峰山隠」なのです。金峰山は標高665m、放送局のアンテナの林立する山でもあり、熊本平野のどの位置からもよく見えます。その金峰山が突然、すっぽりと隠れてしまうというのですから、これは地形のおもしろさから、誰云うとなく地名となったのでしょうか。地形の特徴をとって地名としたところは外にもありそうですが、固有名詞を取り込んでこのような地名となった例はあまりないのではないかと、たとえば富士山隠れ、湯殿山隠れというような・・・。

さて、前置きが長くなりましたが、この字名を現在の地図に書き込むとすれば、どの辺りなのか、それを申さねばなりません。それは意外に身近な所で、なんだこんなところだったのか、と思ったくらいでした。

地図を見てください。中央部を東西に貫通する第2空港線に×印を描くように交叉しているのが旧木山街道です。朱色の線を入れましたが昔ながらの細々とした道です。交叉点のすぐそばに「健軍の湯一休」があります。旗マークを書き込んだ所が長さ400mの金峰山隠れです。わたしはここを歩いて調査したのですが、マンションやら、企業の社屋やら高層の建物が視界の邪魔をして建物の陰になって見えないのか、建物がなくても見えないのか、それを確認することはできませんでした。肝腎のところを確認出来ないもどかしさ

を感じながらも、雰囲気は伝わってきました。初冬の日が金峰山の方へ傾いている午後 4 時ごろ、その残照の様相が少し違う感じはわかります。これはやはり見えないのであろうと自分に言い聞かせました。

明治初期の地図というのは、現代の地図と較べると精度において、やはり未熟さがあるのでしょうか、実地に付き合わせてみると、合わないところがあるのです。一方、消滅する字名が多いなかで、今遺っている字名が必ずしも不動と云えない場合があるかもしれない。何かの事情で字名に異同があれば、現在の地図と合わないのは当然でもあるわけです。

そういうことも考慮に入れて、地図の上だけでなく地元の人から聞き取りもしました。農家の庭先におばあちゃんが出ていれば声をかけたりしましたが、この字名を知っている人はほんとに少ない、というよりも居ないと云った方が適切です。しかし、何人にも当たっているうちに知っている人に会いました。その人はトラクターを操縦して畑を耕していましたが、まだビニールを被せてない骨ばかり建っている畝のあいだを行ったり来たりしていました。トラクターが向こうへ行くと人の姿が小さく見えるほど広い畑でした。わたしが畦に立って会釈をおくと、みるみる近づいて来てエンジンをとめて話を聞いてくれ、これから西瓜の植え付けをするので畝起しと施肥をやっているところだと、わたしの挨拶に応じてくれました。64、5才くらいの体格の立派な男性でしたが、わたしの質問に「子供の頃、親たちが話していたのを憶えている。そういうのに詳しい親類があるのでちょっと聞いてみるたい。」といって携帯電話を取りだし連絡を取ってくれました。その結果、まことに運良く場所の特定ができたという次第です。



「金峰山隠れ」というような地名は、その地形を知ってみれば、まことに「言い得て妙」、おもしろい地名ですが、道路の整備がすすみ、沿道には高い建物が混み合っている現代では、原っぱの中の本道、というかつての面影はどこにもありません。時代の変遷とともに

に、本来の雰囲気失って実質の伴わぬ地名となり果てては、消えて行かざるを得ないの
かもしれません。

ところで、佐土原郵便局の近くに地図にも載らない小公園があるのをご存知でしょう
か。、なんと、この公園が「金峰山隠れ公園」という名称なのです。かつての痕跡が、こ
こに遺っていたのです。往時を偲ぶよすがとしてひっそりと存在しています。



停車している車の
位置から 400 m ば
かり奥の方へ か
けて金峰山が隠れ
て見えない。
この方向へは登り
坂になって高低差
は 8 m くらいあ
る。



金峰山隠れ公園

公園という標識が
失われて、住宅の一
角のちょっとした空
き地という感じにな
っている。地元でも
この公園の名前を知
らない人が多い。

住所は
佐土原 1 丁目 18

